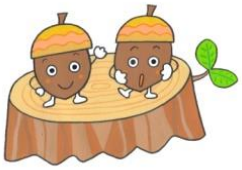

子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0082 東京都大田区池上１－３－４　tel:03-5755-3213　fax:03-5755-3081
http://www.kodomono-mori.net　　mailto:info@kodomono-mori.net

ＪＰ子どもの森づくり運動
参加園月例会報
（2020年８月号）

ＪＰ子どもの森づくり運動とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

＜今月の１枚＞

厳しい残暑の日がつづきます。

感染症対応と同時に、熱中症にも十分にご留意いただき

ご自愛くださいますようお願い申し上げます。

今年も、ちゃんと“どんぐり”が育ってくれています。

自粛つづきの日々の中で、心休まる風景です。

（目次）

１．『【With コロナ】ＪＰ子どもの森づくり運動からの四つの提案』活動経過報告
２．「園庭緑化運動」活動レポート
３．「園庭緑化運動」リレーエッセイ（2020年８月号）
４．事務局からのお知らせ

■「ＪＰ子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「ＪＰ子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「ＪＰ子どもの森づくり運動」運営体制

・運　　営　：NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）
・特別協賛　：日本郵政グループ
・主な後援/協力/連携団体

（公社)全国私立保育園連盟　　ＮＰＯ法人　Ｃ・Ｃ・Ｃ富良野自然塾
（公社）大谷保育協会　　（公社）こども環境学会
保育環境研究所ギビングツリー　　国際校庭園庭連合日本支部
（公社）国土緑化推進機構　　（一社）日本森林インストラクター協会

１．『【With コロナ】ＪＰ子どもの森づくり運動からの四つの提案』活動経過報告

ＪＰ子どもの森づくり運動では、2020年度、 新型コロナ感染症対応の厳しい保育の期間を、ただ耐えるだけではなく「保育力」のスキルアップを目指す期間として、**“こんな時だからこそ”をキーワード**とする四つの活動を提案させていただきました。

１）“こんな時だからこそ”、外遊びや自然・環境体験活動のスキルアップを目指す活動
２） “こんな時だからこそ”、園庭を、子どもたちの多様な体験フィールドとして緑化（改善）する活動
３）“こんな時だからこそ”、本当に、子どもの命を守るための防災体制の構築を目指す活動
４）“こんな時だからこそ”、「♪どんぐりえがお」で「東北復興グリーンウェイブの」“どんぐりの絆”を確認する活動

さらに、事務局（子森ネット）では、それぞれの活動を推進するために、今秋実施予定で研修講座や実践活動を企画し、参加園を募集しました。おかげ様で多くの参加園さんにご共感いただき、下記の参加状況となりました。それぞれの活動成果については後日、本通信やホームページでレポートさせていただきます。皆様でご共有いただけますようお願い申し上げます。

わたしたちは、「withコロナ」を経て、「ポストコロナ」時代のより良き保育とは、単に前の状態に戻ることではなく、それまでの諸課題の解決を図り、より質の高い保育へのステップアップを目指すものと考えます。感染症対応の厳しい保育状況の中で、それでも保育力のスキルアップを目指される参加園さんに心より敬意を表するとともに、本提案が、皆様のこれからのより良き保育づくりに少しでも役立てば幸いです。

＜【withコロナ】研修講座、及び実践活動参加園リスト＞

活動名	都道府県	園名	活動日（予定）
１）「自然・環境体験講座」全国キャラバン	広島県	春日野まごころ保育園	10月6日
	香川県	丸亀ひまわりこども園	10月7日
	埼玉県	浦和ひなどり保育園	10月14日
	福岡県	味坂保育園	10月17日
２）「園庭緑化運動」モデル事業	静岡県	エンゼル幼稚園	研修講座2回開催済み
	東京都	三茶こだま保育園	〃
	鹿児島県	こども園ほしのこ	〃
３）「保育防災」シミュレーション講座	新潟県	つくし幼稚園	調整中
	埼玉県	児玉保育園	〃
４）「♪どんぐりえがお」でつながろう・プロジェクト	千葉県	今井保育園	〃
	福井県	大野幼稚園	〃
	岩手県	あかまえこども園	〃
	広島県	春日野まごころ保育園	〃
	〃	山本まごころ保育園	〃
	東京都	三茶こだま保育園	〃
	〃	駒沢こだま保育園	〃
	〃	新宿こだま保育園	〃
	〃	中目黒駅前保育園	〃
	埼玉県	児玉保育園	〃
	鹿児島県	こども園ほしのこ	〃
	福島県	伊達こども園	〃

＊上記リストには、8月25日までにお申込みいただいた園名を掲載しております。FAX未着等で申し込んだのに名前が掲載されていない園や記載内容に間違いがありましたら、事務局までご一報ください。

２．「園庭緑化運動」活動レポート

園庭を、単なる運動の場ではなく、多様な自然・環境体験フィールドとして緑化（改善）することを目指すＪＰ子どもの森づくり運動「園庭緑化運動」モデル事業としての三回目の研修会レポートは、東京都「三茶こだま保育園」さんからのレポートです。研修会では、同運動のアドバイザーである鶴見大学短期大学部の仙田先生をコーディネイターとして、都心の限られた敷地の中での園庭のあり方や活用について、真剣な意見発表や交換が行われました。今回は、同園の佐原彩奈先生からのレポートです。

研修会（ワークショップ）風景

しかし一方で課題として見えてきたのは、今の園庭環境では遊びの選択肢が少ないということです。子ども時代だからできる体験や遊びがたくさんあります。園庭で様々な遊びの中から自分のやりたいものを選び、さらに発展的な遊びに繋がってほしいという保育者の思いがこのプロジェクトの中にあるように感じました。

私たちの園では『環境』というものをとても大切にしています。この『環境』の中には物的、人的、空間的が含まれていますが、子どもたちは「なにがあるんだろう？」「おもしろそう」「やってみたい！」など興味を持ったものに対して自ら行動し向かっていきます。この自分で見つけて行動に移す力（主体性）は、子どもたちが将来大人になり社会で生きていくためにとても重要だと考えています。

同園では、保育ドキュメンテーションの活動も
積極的に行われています。

私たちは今まで『現在ある園庭の中でどのようなことができるのか』をベースとして園庭環境を整えていました。しかし、今回このプロジェクトでは『子どもたちにとってどのような園庭環境がよいのか』実際に自分たちの子ども時代を振り返ると共に、あそびの課題などを改めて考える機会になりました。

保育者の子ども時代を振り返るだけでも室内、戸外はもちろんのこと、都会なのか田舎(自然のある中で育っている)なのかで遊ぶ環境は全く違います。その中で驚きと感心があったのは自分が好きだった遊びや当時の環境をよく覚えていることです。子ども時代に体験したことは、現在子どもたちとも一緒に味わえていると感じる場面がたくさん見られます。

なお、園庭などの環境には面白さや楽しさがある一方で危険なこともたくさんあります。しかし、危険なことに直面したり、経験することで学ぶ、回避する力や乗り越える力を身に付けることこそが、生きる為の知恵となり最善の安全管理に繋がると考えています。

保育園生活で友だちと一緒に体験、経験したことは生涯きっと役に立つ力となります。園庭での遊びを通して、何か１つでも発見や学びがあれば、子どもたちは想像力や発想力をどんどん広げていくことができるのです。私たちは常にそういう園庭づくりを考えて行きたいと思っています。

三茶こだま保育園　　佐原彩奈

３．「園庭緑化運動」リレーエッセイ（2020年８月号）

「園庭緑化運動」の普及を目的に、園庭緑化（改善）についてすぐれた研究や活動に取り組んでいらっしゃる四人の方々のリレーエッセイを掲載します。「子森通信」７月号～９月号は、「生きものが集い、人の心が豊かになる園庭づくり」に取り組んでいらしゃる小泉造園　代表　小泉昭男さんにお願いしました。今月は二回目のエッセイをお送りします。

園庭は子どもが育てる～園庭は季節を感じる窓～

小泉造園　代表　京都女子大学　非常勤講師　小泉昭男

先月号につづき、今回から二回に分けてポイントをお伝えしたいと思います

１．植栽は子ども達のふれあうところに

生態系の中で唯一の生産者は植物です。食物連鎖だけでない子どもたちに遊びを伝える生産者でもあると私は考えています。その生産者から子どもを離すように仕掛けが、園庭の端っこに植えてあったりします。そして、緑被率（＊注）という設計の中で、子どもが入らないところに果樹が植えられたり、季節の植物はあったります。子どもが触れることはできません。

植栽によって遊びの枠は大きく広がります。植物採取　花壇に植えてあるきれいな植物は観賞用で、情操教育のために植えられていることがあります、触ったらダメ　観てるだけこれでは何も伝わりません。においをかいで、蜜をなめたりしてこそ面白さや不思議さがわかるのです。木登りは子どもたちに勇気と自信を持たせてくれます。またそれが果樹だとすると　食べることもできます。もしかしたらそれをついばみに来る鳥に出会えるかもしれません。遊びのための樹木を植えることをお勧めします。

季節の変化　落葉樹の植物は季節の移行しらせ、子ども達に、時間の感覚と自然のプロセスを伝える（感じる）ことができます。夏の暑さも植物の木陰に入ると涼しさを感じます。以前園庭をつくった保育園に数年ぶりに伺うと大きなシェードは取り払われていました。園長先生曰く、樹が大きくなり木陰ができるのでシェードに比べるとずいぶん涼しいとのことでした。

２．子どもが園庭のどこを住処（遊び場）としているか

大きなグラウンドの真ん中で遊ぶ子どもはいないと思います。誰でもそうですが隅っこが好きです。それは自分を守る　安心できる空間だからです。それらを植物で作ることで季節を感じたり、生きものとの出会いをすることができます。園庭の端っこにそのような空間考えています。レンギョウのトンネルもその一つです。

トンネルはくぐるだけではありません。その中で遊びを展開できます。またレンギョウは春一番に黄色い花をつけます。そしてみどりのトンネルになります。樹木は上記にも書きましたが蒸散作用でその下では気温があ下がります。頭で考えるよりも先に遊びをしながら感じる空間をつくることが大事だと思います。　築山の中のトンネルも一つのエッジです。広い空間よりは、身体を寄せ合い遊ぶのが子どもは大好きなのです。

（写真提供：小泉氏）

（＊注）緑被率：敷地面積に対する緑地面積の割合。自然度を示す指標の一つ。

４．事務局からのお知らせ

ＪＰ子どもの森づくり運動の協力団体である「こども環境学会」さんから、「withコロナ」環境下の保育活動への情報発信です。詳細は、下記アドレスをご参照下さい。リンク先には、下記の太字小見出しでの検索でもアクセスできます。

１）こども環境学会代表理事　仙田　満氏　「新しい生活様式を画一的でなく、年齢層毎の行動指針を」

http://www.childrenenv.org/magazine/blogs/blog_entries/view/10/145e6b3e68919e2fd41fb62dbe040045?frame_id=36　⇒　賛同署名実施中

２）日本医師会COVID-19有識者会議　「小児の新型コロナウイルス感染症に関する医学的知見の現状」

https://www.covid19-jma-medical-expert-meeting.jp/topic/1235?fbclid=IwAR2xm4i-OUIcZ-8DpoW_Csm5ehMGJ4OhaNP_3nJg42DqZsyyLeWHUXZTB0Q（＊太字の見出しで検索いただいても結構です。）